

神奈川県・横浜市

横浜都市発展記念館

—ヨコハマを支えた先進的土木技術に触れる—

窪田崇斗 編集委員

今年で開港150周年を迎えるのに合わせて「開国博Y150」が開催され、盛り上がりを見せている横浜。その中心部、「日本大通り」の程近くに今回訪れた横浜都市発展記念館がある。日本屈指の大都市・国際都市である横浜市の骨格が形成された昭和の戦前期を中心、「都市形成」、「市民のくらし」、「ヨコハマ文化」の三つの側面にスポットを当てて紹介した博物館である。

館内に入るとひとときわ目につくのは、主に明治期のライフライン関係の展示物である。日本におけるきわめて初期からの舗装道路であった「日本大通り」の舗装断面は、まるで考古学の博物館に来た錯覚に陥る、特徴的な展示物である。自然の礫層の上に、明治期の碎石舗装が載っているのがよくわかる。さらに見てみると、関東大震災時のものとみられる建物のれんがの破片が混ざって興味深い。

下水道関係の展示も充実しており、れんがでつくられたマンホールのレブリカでは内部を見ることができ、さまざまな方向に取り付けられた土管や、臭気対策の炭箱、トラップ（S字型鉄管）などが再現されていて、当時の様子が伺える。見学に来た子どもたちは、中に入って楽しむことが多いという。ただし、張りぼてなので土管の上には上がらないように。

記念館の中庭にもガス灯、下水道管などが展示され、一般に公開されている。常設展の準備をしていた2001年頃、横浜で決勝が行われたサッカーワールドカップに向けて周辺で

もさまざまな工事が行われた。そのときの出土品も多く、横浜都市発展記念館主任調査研究員の青木祐介さんによると「本館は、都市の形成に焦点を当てながらも、周辺で見つかった土木遺産というべき展示に力を入れている」とのこと。

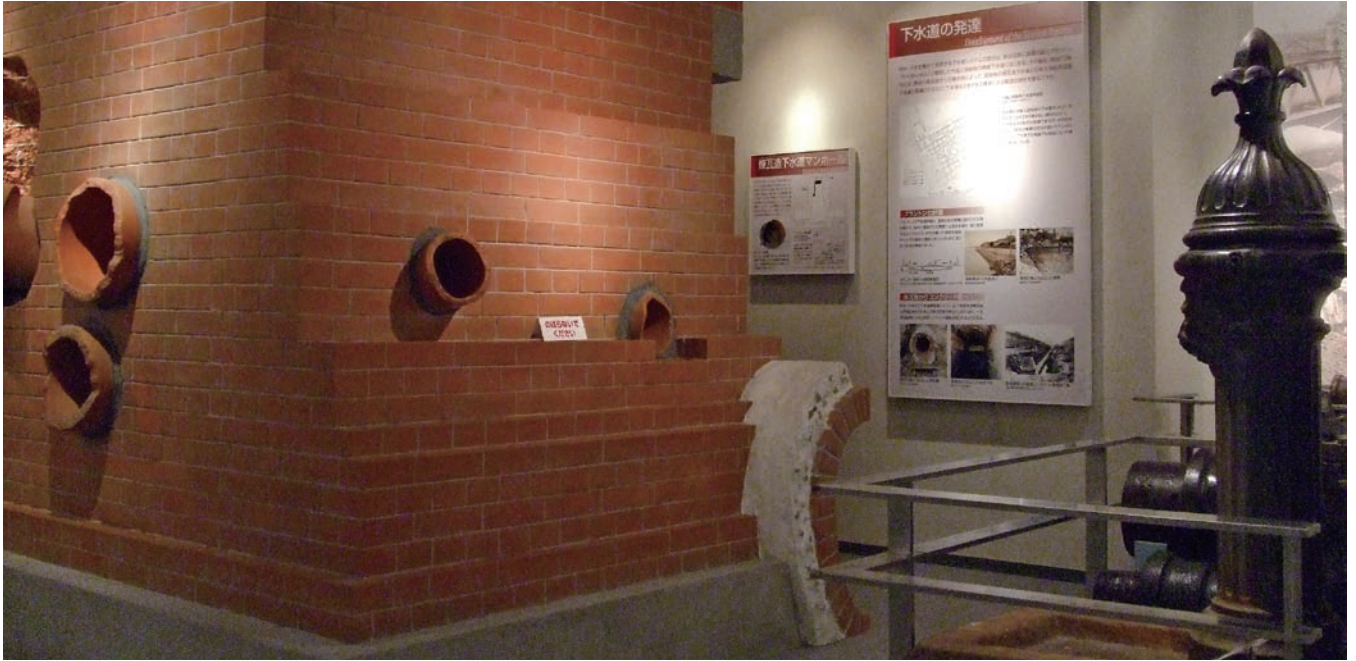
ライフラインのほかにも、震災復興を中心として都市計画、交通網、港湾の発展、市内の注目すべき建築物などについてわかりやすいパネルや模型で紹介されている。また、期間限定の企画として、「横浜絵葉書データベース」と題した展示が行われていて、所蔵する絵葉書の画像はホームページ (<http://www.tohatsu.city.yokohama.jp/index10.html>) でも見ることができる。

山下公園、中華街からも至近なので、かつての横浜に思いを馳せながら散策するのにもちょうどいい場所である。

Access アクセス

所在地 〒231-0021 横浜市中区日本大通12
電話 045-663-2424(代表)
交通 みなとみらい線日本大通り駅、徒歩0分
開館 9:30~17:00(入館は16:30まで)
休館日は毎週月曜、年末年始ほか
入場料 一般:200円、小中高生:100円
URL <http://www.tohatsu.city.yokohama.jp/>





マンホールの実寸大レプリカ



日本大通りの舗装断面



中庭の卵型下水道管



中庭の国内最古のガス管



横浜高速鉄道みなとみらい線出口に直結の横浜都市発展記念館



「都市形成」に関する展示パネル